文芸

《短歌》

○アイゼンを解く足元に福寿草登
山好きの息子の呟き拾う
小堤美智子（小　堤）

●ふうわりと膨らむカーテン束ねつつ
窓越しに見る師走の夕景
髙見　英子（大　戸）

●はたらいてはたらいてはたらいて八人の子を育てし母よ
河野　久子（網　掛）

青空に三百人の第九響く世界平
和の祈りを込めて
佐藤よし子（谷田部）

旨くなあれ美味しくなあれ今年
また見よう見まねで干し芋作る
浦井　正子（宮ケ崎）

思い出をガラスの箱につめてみ
た見えます母のやさしい笑顔
大森　欣子（駒　場）

幸よりも不幸な歌が華やかなク
リスマスの夜降り注いでる
白田　美鶴（網　掛）

霜おりてさくさく歩く山路に今
年も感じる冬の訪れ
富田　満男（小　幡）

妻作る十二支干支（えと）のぬいぐるみ
「午（うま）」をつくりて一巡りなり
片岡　忠彦（長　岡）

冬仕度里芋伏せて大根に土寄
せすれば寒さ凌ぎぬ
大野　友子（城之内）

（評）小堤さん―冬山登山から帰った息子をやさしく描いている。福寿草は、距離を保ちながら見守っている作者自身でもある。髙見さん―あわただしい師走の中の、すき間のような時間を味わい深く詠んでいる。窓辺にたたずむ時のいろいろな思い。河野さん―高市総理の言葉から、母親へと思いが広がった。「はたらいて～」と平仮名にすることで、休むことなく働いていた姿が浮かぶ。

4首（句）目からは初句の第一音の五十音順に掲載しています。

《俳句》

○散る葉ごと森は明るく軽やかに
白田　美鶴（網　掛）

●曖昧な四季の移ろい土鍋出す
鳥羽田早苗（鳥羽田）

●駄洒落好き面影偲ぶ枯野かな
野口　秋夫（上石崎）

凍て付きやライトアップの四度の滝
浦井　正子（宮ケ崎）

老い背中目あり留守番しっかりと
田口　正子（南川又）

大晦日ホームのベルに足いそぐ
富田　満男（小　幡）

親子孫携えられて紅葉踏む
村井　孝子（長　岡）

小春日のやぶの南天艶めいて
小堤美智子（小　堤）

寒空や油絵の様重たげに
髙見　英子（大　戸）

嫁ぎ来て五十二年の日向ぼこ
諸川　恵子（駒　場）

（評）白田さん―落葉した木々は、寒々しさや寂しさを思わせることもあるが、作者は「明るく」「軽やかに」とポジティブに捉えているのがよい。読後に澄んだ空気を感じさせる。鳥羽田さん―現代の季節感覚を素直に表している。「土鍋」という具体語が効いており、暮らしの温度が伝わってくる。野口さん―「駄洒落好き」という一語により、その人の声や笑顔まで想像でき、枯野の広がりと重なって余韻が深い。

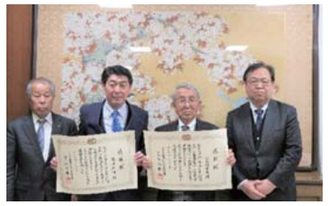
【作品の送付先】
ハガキ等に3首、3句以内を書いて、住所氏名明記の上、**20日まで**にお送りください。
郵　便：〒311-3192
茨城町小堤1080
茨城町秘書広聴課　宛
FAX：029（292）6748
【問合せ先】 秘書広聴課
☎029（240）7126（直通）

茨城町スポーツ推進委員

全国スポーツ推進委員連合　30年勤続スポーツ推進委員を表彰

この度、茨城町スポーツ推進委員として活躍されている入之内（いりのうち）重徳（しげのり）さんと鬼澤（おにざわ）邦明（くにあき）さんの２名が、長野県にて開催されたスポーツ庁・公益社団法人全国スポーツ推進委員連合主催の「第66回全国スポーツ推進委員研究協議会」にて「30年勤続スポーツ推進委員表彰」を受けました。

受賞後は、小林宣夫町長へ表敬訪問を行い、地域のスポーツ活動について語り合いました。入之内さんと鬼澤さんは「今回の受賞がスポーツ推進委員の増加や地域スポーツの発展に繋がれば大変嬉しい。」と話しました。



鬼澤さん　入之内さん

「茨城町スポーツ推進委員」とは、スポーツ基本法に基づき、町から委嘱を受けて活動する地域の方々です。町民の皆様がスポーツ活動に親しみを持って取り組むことができるよう、各種スポーツイベント等の企画・運営を行うとともに、地域住民と行政との連絡調整役としても活躍しています。

町ではスポーツ推進委員を募集しています。スポーツ推進委員として活動したい方・興味がある方は、お気軽に生涯学習課までお問い合わせください。

【問合せ先】　生涯学習課　☎０２９－２４０－７１２２（直通）

身近な出来事を「広報いばらき」に掲載しませんか？
▶対　　象　町内に在住・在勤されている方
▶原　　稿　文字数400字～600字程度、写真１～２枚
▶応募方法　住所、氏名、連絡先（電話・FAX番号）を明記の上、郵送・ＦＡＸ・電子申請等でお申し込みください。
※スペースによって、掲載できない場合もあります。
【応募・問合せ先】　秘書広聴課　☎０２９－２４０－７１２６（直通）
FAX：０２９－２９２－６７４８

紙芝居「こたつものがたり」

レポーター　藤枝　豊子（小堤）

この度、紙芝居「こたつものがたり」を出版しました。おじいさんと猫のほっこりとした物語です。

このお話は我が家に迷い込んだ、保護猫が基になっています。ガリガリに痩せた姿を見て「これでも生きていられるんだ。」とショックを受けたのを覚えています。エサを与えるたびにシャーと威嚇されましたが、一か月を過ぎる頃には体もふっくらして、真っ白できれいな猫になりました。名前をシロとつけました。懐いてくれ、一緒に寝てくれるようにもなりました。しかし体が弱く、月に三回は病院につれて行きましたが、我が家に来てわずか一年しか生きられませんでした。

シロと過ごした時間は短かったけれど、とても濃く幸せな日々でした。そんな可愛いシロちゃんをお話の中に書きたかったのです。この紙芝居が多くの人に喜ばれ、愛されたらうれしいとの思いで、茨城町立図書館に寄贈しました。

第21回手づくり紙芝居コンクール
優秀賞受賞

越安区　生涯学習移動教室を開催

レポーター　萩谷　光保（越安）

令和7年11月26日（水）に、越安区は「生涯学習移動教室」を実施しました。当日は天気にも恵まれ、区民16名に参加いただきました。

越安区の生涯学習移動教室は、新型コロナウイルス感染症の影響を受け、令和元年の開催を最後に実施することができずにいました。今年度は、地区の生涯学習担当役員の方の尽力もあり、6年ぶりに開催することができました。今回の行先は潮来市にある「愛友酒造株式会社」と「道の駅いたこ」、鹿嶋市の「鹿島神宮」で、昼食は神栖市内のアトンパレスホテルにてランチをいただきました。平日開催のため参加者募集が大変でしたが、地区の方々の親睦も深まり、非常に有意義な体験学習となりました。

他にも6月には、町の「ふるさとづくり出前講座」制度を活用し、消費生活相談員や町集落支援員の方たちのご支援を得て、区民向けの講座も開催することができました。

多くの人が集まって交流する機会が少なくなってきた昨今ではありますが、今後も地区会員の交流と親睦を深め、地区活性化を図っていきたいと思います。